

<2019年4月9日発表>

2019年夏 北九州市に導入する連節バスのデザイン決定！

- 西鉄バス北九州(株)と北九州市は、2019年夏に導入予定の連節バスについて、デザインを決定しましたのでお知らせします。
- 両者は、人口減少・超高齢化社会に対応した持続可能な公共交通ネットワークの再構築を図るため、拠点間BRT(※)の形成等に取り組んでいます。その一環として、2019年夏に連節バス2台を導入します。
- デザインは昨年秋の公募に寄せられた総数43点の中から最終選考に残った3点を対象に、本年1月に北九州市民による投票を行いました。2,679票に及ぶ投票の結果、北九州市にあるデザイン制作・広告会社(株)ハーティブレーンのデザイン案を最優秀賞とし、連節バスのデザインに決定しました。
- 採用するデザインは、“北九州市の文化や伝統を身近に”というコンセプトのもと、江戸時代から続く特産物「小倉織」をモチーフに、市内各地の活気溢れる「まつり」、市花である「ひまわり」と「つつじ」など北九州市の特色を表しつつ、洗練されたデザインが評価されたものです。
- 今後は、4月23日(火)に一般車両への影響や走行環境の最終確認のための試走を行った上、必要な改善を図り、今夏の導入を目指します。なお、運行に関する詳細は6月下旬に発表予定です。
- 両者では今後も、持続可能な公共交通ネットワークの再構築を図るため、拠点間BRTの形成やバス路線の再編等に取り組んでまいります。

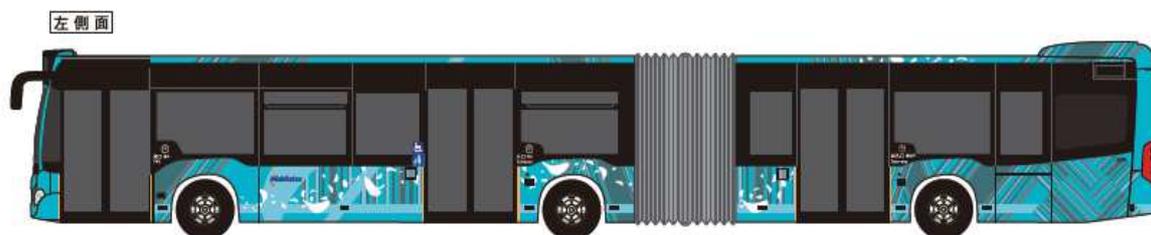
※拠点間BRT…連節バスの導入やわかりやすい停留所の整備、路線バスとの乗継強化等に加え、定時性・速達性を向上させる専用走行空間を備えたシステム

■ 北九州市連節バスデザインの概要

【応募総数】 43点(応募期間:2018年10月9日(火)~11月16日(金))

【最優秀賞】 (株)ハーティブレーン

<外装デザイン> “北九州の文化や伝統を身近に”をコンセプトに、江戸時代初期、豊前小倉藩(北九州市)で織られた「小倉織」をモチーフとし、市花である「ひまわり」「つつじ」の花びらをイメージしています。



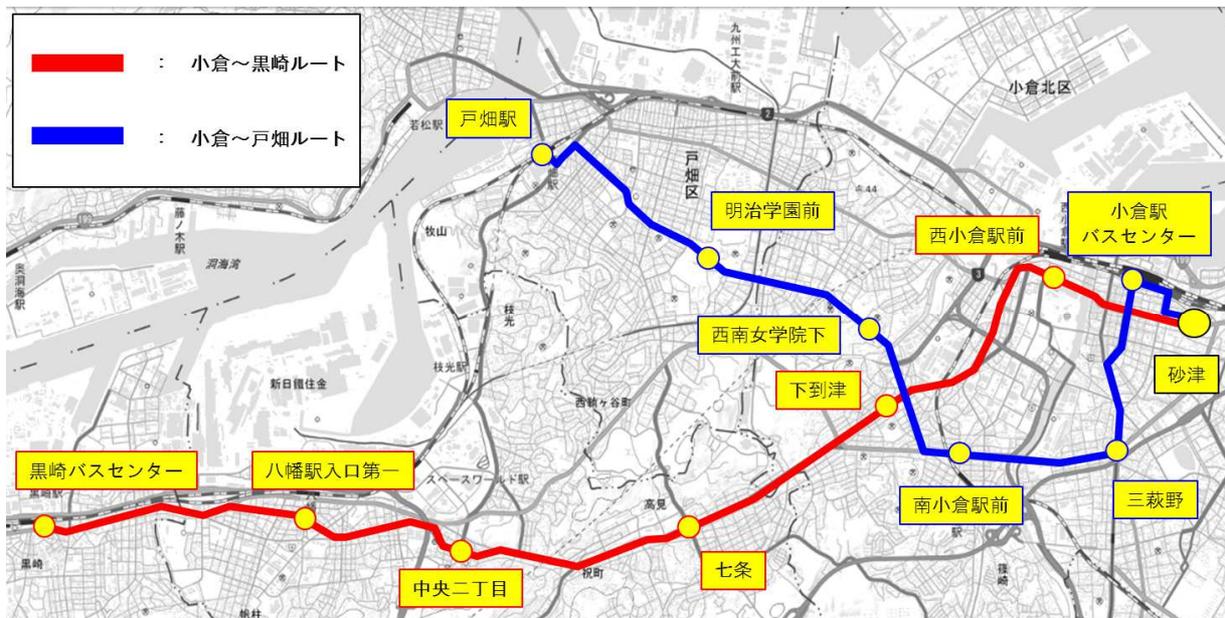


<内装デザイン> 「小倉織」をモチーフとして市花の花びらが舞い、不規則な無数のラインは市内各地で舞う祭りの「バチ」や「神輿の灯」「しゃもじ」を表現し、北九州市の躍動感と文化を感じられるデザインにしました。



(参考) 北九州市連節バス導入の概要

- 【導入時期】 2019年夏
- 【導入台数】 2台（「CITARO-G」メルセデス・ベンツ製）
全長 1,817cm、全幅 255 cm、全高 310 cm
- 【検討中のルート】
 - ・小倉～黒崎間（砂津～黒崎バスセンター）
 - ・小倉～戸畑間（砂津～戸畑駅）
- 【運行便数】
 - ・小倉～黒崎間 5～8往復（予定）
 - ・小倉～戸畑間 1往復（予定）
- 【運行時間帯】 7時～22時（予定）



※現在検討中のルートであり、変更となる可能性があります。
 ※バス停は検討ルート上における主要バス停のみを記載しております。
 ※地理院タイル（国家地理院ウェブサイト出典）を加工して作成しております。

本件に関するお問い合わせは、西鉄お客さまセンター(TEL:0570-00-1010)まで